高温条件下でも品質の優れる水稻種「くまさんの力」の育成

○藤井康弘・三ツ川昌洋・上野育夫
（熊本農研セ・高原農業研究所）

【目的】
熊本県は、平垣地域を中心に「ヒノヒカリ」、「森のくまさん」等良食味中生品種が栽培され、これら両品種の作付比率は県全体の64%を占めている。しかし近年、気候の温暖化により、これらの品種に乳白、基白、背白等の白米類量の増加が多くみられ、上位等級の低下が著しい状況にある。このため、良質栽培の要求が高まり、高温度条件下でも良質の「くまさんの力」を育成したので報告する。

【育成経過】
「くまさんの力」は、1998年に熊本県農業研究センター農産園芸研究所作物部において、良食味の中生種「ヒノヒカリ」を母とし、良質多収の早生種「北陸174号」を父として人工交配を行った藤種に由来する品種である。人工交配の翌年、F2の麴を薬剤処理し、再生群体から藤種（A）を育て、2001年に選抜を図った。2003年（A）から「系A44」の系統番号で生産力検定試験及び特性検定試験に、2005年（A）からは「品種A49号」の系統名で奨励品種決定試験及び現地試験に供試し、地域適応性を検討した。その結果、2008年3月に熊本県における奨励品種に採用された。

【主要特性】
草型は中稈の偏穗重型で、ヒノヒカリに比べて稈長は5cm程度短く、穂長は長く、穂数はやや少ない。稈の太さはやや太く、穂質は「中」である。止め葉はよく立ち、粒着密度は「中」で、程度にやや短の芒を有する。

出穂期は「ヒノヒカリ」より1日、成熟期が2日程度遅く「中生の中」に属する。耐倒伏性は「ヒノヒカリ」より強い「中」、穂発芽性は「やや弱」、脱粒性は「難」である。収量性は「ヒノヒカリ」とほぼ同等である。いもち病抵抗性遺伝子は「Pia」をもつと推定され、圃場抵抗性は著いものもあり、穂いもちともに「ヒノヒカリ」と並の「やや弱」である。白黒枯病抵抗性は「弱」である。

玄米の形状は「中」、粒大は「中」で、玄米千粒重は「ヒノヒカリ」より1g程度重い。玄米品質は「ヒノヒカリ」より優れ、高温条件下でも白米類量の発生は少ない。食味は「ヒノヒカリ」と同等の「上中」である。

【適地と栽培上の留意点】
白黒枯病に弱いので、常発地での栽培をさける。また、いもち病抵抗性は十分でないので、防除を徹底する。

第1表 「くまさんの力」の特性概要

<table>
<thead>
<tr>
<th>品種名</th>
<th>くまさんの力</th>
<th>ヒノヒカリ</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>早晩性</td>
<td>中生の中</td>
<td>中生の中</td>
</tr>
<tr>
<td>草型</td>
<td>偏穗重型</td>
<td>偏穗重型</td>
</tr>
<tr>
<td>出穂期（月・日）</td>
<td>8.27</td>
<td>8.26</td>
</tr>
<tr>
<td>成熟期（月・日）</td>
<td>10.14</td>
<td>10.12</td>
</tr>
<tr>
<td>稲長（cm）</td>
<td>77</td>
<td>82</td>
</tr>
<tr>
<td>稲長（cm）</td>
<td>22.5</td>
<td>20.2</td>
</tr>
<tr>
<td>稲数（本/㎡）</td>
<td>332</td>
<td>359</td>
</tr>
<tr>
<td>芒の多少・長短</td>
<td>やや少・やや短</td>
<td>稀・短</td>
</tr>
<tr>
<td>ふ先色</td>
<td>黄白</td>
<td>黄白</td>
</tr>
<tr>
<td>ふ色</td>
<td>黄白</td>
<td>黄白</td>
</tr>
<tr>
<td>脱粒性</td>
<td>難</td>
<td>難</td>
</tr>
<tr>
<td>穂発芽性</td>
<td>やや難</td>
<td>難</td>
</tr>
<tr>
<td>耐倒伏性</td>
<td>中</td>
<td>やや弱</td>
</tr>
</tbody>
</table>

第1図 高温条件下での「くまさんの力」の品質

注1) 育成地における2003～2007年の施肥栽培での成績
注2) 玄米品質は1（上）～4（中）～9（下）の9段階評価

（2005年試験結果）